

● アケボノシュスラン [曙繡子蘭] ラン科

長尾 キヨ（津軽植物の会）

ラン科の植物は春から夏にかけて圧倒的に多い。秋の気配が感じられる頃に咲くランは珍しいのではないか。それがアケボノシュスランである。

和名がいい。花の色が早朝（曙）の空の色を
思わせ、葉の様子が織物の一種で光沢のある縞
子にたとえたものである。

おもに落葉樹林下にはえる高さ10cmほどの地生ラン。北海道から九州に分布する。茎は細く基部が地表をはって節から根を出し上部が立ち上がる。葉は4~5枚が互生し、長さ2~4cm幅1~2cm、橢円形でヘリには波状のしわがある。花期は9~10月。花序は直立し茎の上部に微紅色の花を3~7個やや偏ってつける。

花は径1cmほど。
アケボノシュスランは湿り気のある樹林下で群生することが多いが、今年はどうしたものか大群生に息を呑んでしまった。なんと100株



アケボノシュスラン

以上の最盛期だったのである。

アケボノシュスランはシュスランの仲間で、ほかにツユクサシュスラン・シュスラン・ベニシュスラン・ハチジョウシュスラン・シマシュスランなどある。数十年前、十二湖周辺でベニシュスランを観察できたという情報があったことを思い出した。ベニシュスランについて新青森県植物目録にランクA：分布域が点状であるが、その場所での個体数は割合多い稀産種がある。

果実までは継続観察できないが、ネットワーク梵珠 2024.9.15 の表紙に新岡美樹子さんの細密画にアケボノシュスランの花の拡大（横顔・正面）果実・種子の拡大が掲載されているので是非参考にしてください。新岡さんの細密画はいつも楽しみにしているのです。



アケボノシュスラン

(4) 令和7年3月31日

— 梵珠だより

● ヤママユ（ヤママユガ科）鳴海 富美子（津軽昆虫同好会）

ヤママユは、夜行性で黄土色をした、本州にいるガの中では最大で、広葉樹林に生息している。日本在来の代表的な野蚕で（天蚕）とも言う。クスサンに似るが、翅に沿って直線的な線があることで区別できる。

年に一度の発生で卵で越冬し、5月頃に孵化した幼虫はブナ科植物等を食べて育つ。終齢になると体の周りに糸を出し、葉を引き寄せて蛹になるための繭を作る。繭は薄いクリーム色の楕円形をしていて、一部の地域ではこの繭から天然の糸を探る。この天然糸から織った天然布は淡い緑色をしていて美しいが、飼育が難しいこともあって非常に高価である。

成虫は梵珠では9月上旬にセンター前に飛んできた2頭のオスがいたが、殆ど飛べない様子で翅をバタバタさせていた。成虫は口が退化して何も食べず5日程しか生きられず、その間に交尾・産卵をする。メスのお腹には卵がいっぱい詰まっていて太くなっている。また、触角はオスは羽毛状、メスは糸状である。夜行性であるヤママフガ科のメスは、オスを引き寄せるフ



まゆ



成虫

生物暦(2024)							6月														は虫類・両生類									
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
観察できたもの	ウラジロヨウラク・ミヤマカラスアゲハ	コケイラン・マイヅルソウ・モリアオガエル	アカショウбин・オドリコソウ・オダリバチソウ	アカゲラ・カモシカ	ジガバチドリ・ノビネチドリ	ウスバシロチョウ	サイハイラン・リス・ヒメクロサンエ	ギンリョウソウ・カワガラス	ノウサギ・ギンヤンマ	キジバト・リス	フジミドリシジミ	ミヤマカラスアゲハ・アオバト	アオバト・カナヘビ	オドリコソウ・ミソサザイ	オニシモツケ・コチャバネセセリ	ヤマボウシ・オオミズアオ	カケス・オオルリ	アオバト・コミスジ	カケス・エゾハルゼミ	ヤリノキ・ミヤマカラスアゲハ	ウメガサソウ・カモシカ	キビタキ・シオヤトンボ	ツルアリドウシ・タヌキ	アキグミ・キバシリ・カナヘビ	クリ・ウグイス・キセキレイ	オニノヤガラ・チヨウゲンボウ	トチバニンジン・クロヒカゲ	イチヤクソウ・キビタキ	ウグイス・メスアカミドリシジミ	サル・アカシジミ・クジャクチヨウ
天	☁	☁	☂	☀	☁	☁	☀	☀	☀	☂	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☁	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☂	☀	☂	☀	☀	☀